

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	322利便性の高い公共交通体系の充実		
施策のねらい (めざす姿)	環境に配慮した公共交通を利用して、目的地まで円滑に移動できています。連続立体交差事業等の進展により、交通渋滞が解消されています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	マネージャー氏名	萩原 勝

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	コミュニティバスについては、運行形態の見直しを実施したが、利用者や市民の意見を伺い、見直しの成果の検証を行っていく必要がある。北総線沿線活性化や運賃問題には、周辺市と連携を図っていく。	③改革・改善内容	令和4年度からの新たな運行計画については、コロナ禍による新たな生活様式も踏まえ、コミュニティバスの運行が持続可能なものとなるよう検討する。北総線沿線活性化対策等は、今後も周辺市と連携を図っていく。
②①に基づく取り組み結果	令和元年度のコミュニティバス運営検討委員会の提言を踏まえながら新たな運行計画の検討を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少してことで運行事業者から新たな運行計画の実施が難しいとの要望書が提出されたため現行運行を1年間延長した。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市民(公共交通利用者)	意図(対象をどうするのか)	買い物、通勤、通学及び公共施設への移動手段の確保
②施策の概要	鉄道、バス、タクシーなどの公共交通網の充実を図る。また、周辺市と連携し、北総線沿線の活性化により、北総線の利用増による市民が利用しやすい安定した運行に寄与する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新型コロナウイルス感染症の影響により利用者は減少しているが、市民の公共施設等の移動手段として、さらなる公共交通機関の充実が求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度～2年度の施策の成果	コミュニティバスは継続して運行を行い、事業者に対して運行補助金を支出した。運行計画については、令和元年度のコミュニティバス運営検討委員会の提言を踏まえながら新たな運行計画の検討を行ってきたが、新型コロナウイルスにより、利用者の大幅な減少などにより1年間延長した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標値(2年度)
	i	鉄道駅乗降客数(1日あたり)	人	201,145	201,005	159,077	200,000
	ii	市内バス利用者数(1日あたり)	人	1,355	1,313	調査中	2,000
	iii						
③基本事業成果指標	i	新京成線連続立体交差事業進捗率	%	86	89	90	94
	ii	公共交通利用者数(1日あたり)	人	202,500	202,318	調査中	202,000
	iii	駅前広場整備数	箇所	3	3	3	5
	iv	市内駅エレベーター・エスカレーター設置率	%	100	100	100	100
	v						
	vi						
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	令和元年度決算	令和2年度決算	市民一人あたり事業費(2年度決算)	令和3年度予算			
事業費(千円)	447,828	317,317	(単位:円)	2,900円	562,662		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	コミュニティバスは、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少しているため、新たな運行計画については、コミュニティバスの運行が持続可能なものとする必要がある。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	鉄道・バス等の公共交通利用者が新型コロナウイルス感染症の影響により減少したため未達成となった。新京成線連続立体交差事業により駅を高架化するにあたり、エレベーター・エスカレーターを整備し設置率を達成した。

V 今後の方向性

①施策の方向性	↑ 拡充
②上記方向性の説明	利用者の要望や係る経費等を考慮しながら、コミュニティバスの利便性やサービス内容の質の向上につながる運行内容等の検討を行い、持続可能な運行計画を策定していく。
③特に重点化する事務事業	コミュニティバス運行助成事業